

自己評価結果票

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「自分らしく最後まで」「新しい家族」基本理念に基づき、利用者も本当の家がある方もいれば、もうない方もいる。利用者は、このグループホームを家と同様暮らしている。利用者だけではなく、職員にとっても、このグループホームが『私達の「もう一つの家』』となる様に理念を作りあげた。	○ 理念に基づき私達にとっての、私達のもう一つの家のご近所付き合いが出来るようにしていきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関に理念を掲げている。会議や面談時に確認をして共有できるように取り組んでいる。	○ 会社の新期の時期に合わせて、1年間の計画表を作り、その計画表に理念を意識できるように記載し工夫している。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域活動に積極的に参加していき、出来る限り、利用者も参加できる機会を作って、理解してもらえように取り組んでいる。	○ 地域清掃は場所が遠いので職員のみで参加している。地域清掃に早く馴染めるようにほぼ管理者が行くようにしている。勤務の計画を立ててこれからは他職員も一緒に参加し地域住民との交流の幅を広げようになりたい。
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所の方々が道端で立ち話をしているところ仲間に入れて頂き地域の最近の様子や、日常生活の知恵を教えてもらっている。ふれあいサロンに誘って頂き利用者と一緒に参加した。	○ 気軽に立ち寄れるつき合いを目指したい。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の副会長との交流で、地域性を考慮したアドバイスを頂けるようになった。自治会行事の参加するきっかけや、参加の仕方でも離れた地域住民と顔なじみになってくれた。地域掃除と餅つき大会の地域住民参加者が同じ方だったので、参加しても楽しめるようになってきた。	○ 今できている交流を維持していきたい。理解してもらえていない住民とのつき合いの課題の解決を考えている。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	最近入居された方の「帰る事を目的に歩く」外出支援時の休憩場所として、子育てサークル「あじさいの家」「にこにこ」に訪問している。利用者の事を覚えてもらい、利用者は名前前で呼んで頂けるようになった。	○	利用者の外出支援を活用し地域交流を考えていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表・第三者評価表を掲示し確認できるようにしている。	○	取り組み方の工夫をしたい。職員が常に目に入るような場所に設置していく。第三者評価表項目を当ホーム委員会活動の役割分担項目に活用したい。業務目的の達成に役立てたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーには具体的なアドバイスを頂いている。ホーム側が相談しメンバーに助言頂いてサービスの向上に活かしている。	○	運営推進会議を以前のペースで行えていないが運営推進会議のメンバーが初期より変わった事をきっかけに手順がわかり始めて地域交流は活発に行えている。
9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市から派遣されているボランティアの介護相談員が毎月訪問され、サービスの質の向上に取り組んでいる。入居相談の電話連絡がある。ご家族の紹介もあり入居受入れに繋がったこともある。	○	地域包括支援センターの職員が施設見学に来られた。勉強会等の参加を考えたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	家族会にて家族に成年後見制度についての案内をした。成年後見人制度を必要とするご家族に再度資料等を渡し説明し支援した。新入居者のご家族へ説明している。	○	後見人についての情報の共有をしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、日常の業務で抑制・拘束になるか確認し合いながら防止する事に努めている。	○	外部での研修があれば参加し職員へ周知していきたい。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得	契約時には十分な説明を行い、理解、納得を図っている。	○	理念についてもう少し詳しく説明をしていきたい。
	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
13	○運営に関する利用者意見の反映	介護相談員の方々が毎月来られ利用者も楽しみにされている。本音を言える場面とも言える。利用者が不満に思われている時は違うユニットの職員・利用者と関わって気分転換を図るようにしている。管理者へも苦情・不満・意見を言えるような場面作りをしている。	○	利用者の心情を理解できる支援をしたい。
	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
14	○家族等への報告	毎月、郵送している「ふれあい通信」で利用者のホームの生活を知らせている。利用者の金銭管理は「弥生会計」で管理し明確にしている。	○	業務の役割分担・引継ぎの不具合でふれあい通信を渡せていない事があったのでこのような事態にならないようにしていきたい。
	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
15	○運営に関する家族等意見の反映	もしかしたら、苦情になるかもしれないような事を記録できる専用の苦情記録シートがある。それを活用して苦情防止をしているがあまり活用しきれっていない。	○	苦情記録シートを活用させていき、ご家族の不満が募る前に気づけるような習慣を身につけたい。
	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
16	○運営に関する職員意見の反映	委員会活動内容を改めて実行していく準備をしている。委員会規定を作り各委員長がリーダーとなって反映できる計画を立てている。ケアプラン同様の施設計画書を作成し施設は今後を目指しているかが解りやすい工夫をしている。	○	委員会議のメンバーに管理者も加わり委員長がリーダーとなれる環境作りを徹底していき人材育成に繋げたい。
	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている			
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整	各階のホーム長が勤務を組み、ご家族、利用者の状況の変化に柔軟に対応できるような勤務の調整も出来るかぎり行うように努めている。	○	職員が各階どちらでも勤務できるような環境を作りをしている。今後も継続したい。全ての利用者の対応が出来るようになれば職員の配置もしやすく違うユニットの利用者との交流も図りやすくなる。
	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている			

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>正社員への登用などの割合を増やし離職を防ぐ考慮している。手当てについての改善もあった。</p>	<p>○</p>	<p>利用者へのダメージを防ぐため、離職はあって当然と考え方を改めなおし、それを前提に業務改善を考え職員定着に努めたい。</p>
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>実践者研修等の研修を受講し、外部で学ぶ機会を増やしている。</p>	<p>○</p>	<p>まずは、研修に行く予定を立てれる環境にしていきたい。解決すべき課題の優先順位を改める。委員会規定を作り正社員・役職になる前に体験リーダーをしてもらう。</p>
<p>20</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>単発的な交流になっているので定期的な交流を計画したい。</p>	<p>○</p>	<p>施設の課題の解決する手順を考えると、どうしても優先順位が他事業所との交流は後回しになってしまい、継続しないので、そうならない為の工夫をしたい。</p>
<p>21</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>忘年会や新年会開催で職員同士が職場以外で話せる機会を作っている。言い合える環境作りに努める。外部研修で学んだ内容の勉強会を行ってストレス軽減を図った。</p>	<p>○</p>	<p>助言の段階を多くしていく。忠告する時はもうすぐ起こる。注意する時は起こった後という解釈をする。起こる前に皆で助言し合う同士になることもストレス軽減の工夫であると自然に考えられる環境にする。</p>
<p>22</p> <p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>「やりがい・達成感」と「満足・納得」が出来る職場にする目的で外部に依頼し内部研修をしている。</p>	<p>○</p>	<p>知っていたような気がするけど、初めて理解できた内容の内部研修であった。理解する為のきっかけであったような気がした。今後も研修を受けて学習していき職員に反映できるようにしたい。</p>

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族からの情報を参考に利用者と個別で向き合い本人自身が求めている事をよく聞く機会を作り信頼関係を築くようホームで安心して生活出来る支援に努めている。	○	ご本人の意向を理解する為、何故?どうして?その訳を知ることを怠らないようにしていきたい。勝手な思い込みをしないようにしたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前からご家族と十分な話し合いを持ち利用者の状況、ご家族との関係を良く聴き、ご家族の気持ちや求めている事を把握する努力をしている。ご家族に、安心して暮らせるホームであると理解されるよう信頼関係を築く努力をしている。	○	面会時には報告していき、情報交換をご家族とする事で信頼関係を築いていきたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族にも利用者にも、なるべく多くの情報を提供してもらえるような雰囲気の中で相談を受けるように努めている。その方はどうしたいか、どうなりたいかを見極めて、そうなるまでの手順を考えるようにしている。	○	どのような相談も、どうなりたいのかを正しくイメージして相談を受け入れたい。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居された直後のケアの方針を決定したら職員が統一したケアが出来る環境にする。ここで暮らすご本人を観察しさらに理解できたら目標やケア手順も変更し、日々状況判断を常にしていく。ご本人の日々の状態に合わせて馴染める環境を作っている。	○	ご家族・利用者がどうなりたいか、どうなってほしいかを常に確認していく。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	「新しい家族」の理念に基づき、家事等の共同作業を行いながら利用者から学びともに過ごす事で喜怒哀楽を共有し支えあう関係である場面を作っている。	○	利用者同士の関係も把握して、それを活かせるケアも支え合う関係になっている。そういう場面を増やし利用者・職員はお互い思いやる気持ちを忘れず普通に暮らす「新しい家族」でいたい。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
28	○利用者を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている	面会時に職員が日常となっているケアについては積極的に報告している。また、良く面会に来られるご家族にはケアの手順も学んでもらうように働きかけている。	○	行事だけではなく、日常のケアも一緒に出来る機会を作り、それが日常であるようにしていきたい。
29	○利用者ご家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの利用者ご家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者、ご家族とがお互い理解し合える関係でいられるように職員は、利用者、ご家族のかけ橋となれる支援を心掛けている。	○	「自分らしく最後まで・・・」の理念に基づき利用者ご家族がここで生活が出来てよかったと思えるような支援をしていきたい。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の学生時代の友人が面会に来られる。入居前に利用していた美容院への付き添いをしている。入居前から習慣であった知人との集まりに行くように知人とも連携している。	○	馴染みの関係が途切れることが無いように支援していきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の関係を把握したうえで家事の共同作業を行って頂き、一人ひとりに役割があり自然と利用者同士支え合う場面を作り孤立しないよう努めている。また、そのことが習慣となっている。	○	利用者が今出来る事が何であるか、変化に気付くように支援したい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居されたご家族が遊びに来られ、歌を披露したりお茶を一緒に飲んだり、付き合いを大切にしている。	○	行事の参加を希望されているので、餅つき等の行事に招待しようと思っている。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の介護記録等で情報を共有し把握するよう努めている。介護計画を作成するときに利用者に希望等を聞き、一人ひとりの生活課題が的確なものであるように工夫している。	○	日常会話の中からも、ご本人が希望している事を把握できるように意識して支援していきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、主にご家族から利用者の生活歴を聞く。入居する前の利用者の今までのサービス利用の経過と、暮らし方を聞き、これまで、どのように生活されていたのかを、把握するよう努める。	○	利用者が楽しかった思いでは何度でも聞くようにして忘れない為の支援をしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するよう努めている	一人ひとりの記録があり、それを申し送り情報を共有して把握するよう努めている。介護計画を作成する際、24時間アセスメントを実施し、現状把握の工夫をしている。	○	情報の共有の工夫をして常に改善に向かうような習慣を身につけたい。
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の24時間アセスメントを取り8項目のケアチェック表でアセスメントを行い利用者・ご家族の意見を取り入れ、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	○	利用者の課題を理解していき解決する事が何であるかを間違わないようにしていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月の期間で介護計画を作成し、3ヶ月で見直すのが毎月の会議で、検討していく内容があれば、随時確認しあっている。入院等で状態に変化がある場合は、新たな計画を作成している。	○	ケアカンファレンスをする時間を作る工夫、カンファレンスする前の準備、課題は何であるかを統一してからの話し合いをするように心掛けたい。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録等で、利用者の様子がわかるよう記録し送り、情報を共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。	○	利用者の心理的な変化にもスグに気付いていけるようにしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご家族の環境の変化の相談や要望等にできるかぎりの対応をし柔軟な支援をしている。	○	施設側とご家族の関係が利用者にとって安心できるようにより良い関係でありたい。
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	毎月、介護相談員の訪問を受け入れている。消防訓練を年2回実施している。	○	消防署の講習訓練を受講した職員も改めて再度講習を受けるようにしていきたい。
41	○他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用する必要性があれば、できるかぎりの支援をしていきたい。	○	利用者・ご家族の意向は見逃さないようにしたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今現在、協働しているとは言えない。地域包括支援センターの職員に運営推進会議に参加して頂いているので、今後、必要性があれば、地域包括支援センターと協働していき、その事を意識して関わっていく事に努める。	○	最近、グループホームを知りたいという目的で地域包括支援センターの職員が見学に来られたので、この機会に交流を図りたい。

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
43 ○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隔週のかかりつけ医の往診や、定期的な歯科医の往診、訪問マッサージの鍼灸師の往診を、ご家族に納得して頂き受診している。その他の受診もご家族の意向を聞いたうえで受診している。	○	主治医は利用者(患者)を理解し適切な対応をしているので施設側との良い関係も継続していきたい。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	往診の医師は、認知症に詳しく、また、馴染みの関係にもなっているので、利用者を理解して頂いている。	○	利用者の病状を理解し、専門医への受診の手配も支援してくれている。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	内科往診の際に同行している看護師に、医師と同様、利用者を理解されているので気軽に相談でき協働している。	○	今の関係を維持したい。
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院の際、見舞いに行き入院中の様子や病院関係者と、なるべく情報交換し利用者が入院中、なるべく安心できるような支援をしている。退院に向けての話し合いも職員が立会いご家族とも連携している。	○	利用者が退院した時の生活準備を考慮している。職員も利用者も早く退院出来るように望んでいる待っている事が伝わる支援をしたい。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の指針があり家族会等でも話し共有している。介護計画更新の際、終末期に向けての意思を確認している。終末期についてご家族より質問があれば、その都度説明している。	○	もっと日常会話に取り入れる支援ができるようになりたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	職員がご家族や利用者を確認する機会を作っている。かかりつけ医とご家族との関わりをもつ機会は、必要に応じて行っているが、今後の変化に備えての検討をチームとしてしている意識が不十分である。事例を話すイメージしやすくご家族も検討しやすい。	○	少しずつ改善していきたい。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	事業所での生活を詳しく記録し、サマリーを作成し、必要に応じて情報交換を行い、住み替えによるダメージを防いでいる。	○	利用者が安心して暮らすために、他利用者の協力も促すようにする。職員からの情報よりも利用者の率直な意見を参考にして頂けることがある。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねるような言葉かけや対応に、配慮することを意識しながら支援している。	○	記録等の取り扱いに配慮していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者を交えた会議や、利用者だけの会議をして、意見交換をし希望を聞き支援をしている。日々の暮らしの中で対話し希望を表せる場面を作るように意識し支援している。	○	自己決定の支援を工夫したい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの介護計画を念頭に入れながら、利用者主体のペースを大切に支援している。	○	状況に応じて判断できる支援を身につけたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その人らしさに配慮し、なるべく衣服はご自分で選んで頂いている。訪問美容の利用をして頂き、身だしなみに配慮している。またご本人の希望で行きつけの美容院へ行っている利用者もいる。	○	利用者の好みを理解していきたい。

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、味付け、配膳、食器拭き、食器洗い、箸ならべ、台拭き、等の食事の準備や片付けを日々利用者と共にしている。その役割も利用者の習慣となり、食事を楽しむ事のできる支援をしている。	○	共同作業する場合のリスクを十分理解した支援を考えたい。
55 ○利用者の嗜好の支援 利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	希望している利用者にはヤクルト販売を利用できるように支援している。飲み物や、おやつのお好みを持ってティータイムの時間を活用して楽しめるよう支援している。	○	嗜好の支援の工夫を考慮したい。
56 ○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄表や、介護記録で、排泄パターンを把握しながら、気持ちよく排泄できるよう努めている。	○	利用者の立場を考えた支援を心掛けるようにしたい。
57 ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴できる準備を毎日しており、個々の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう支援している。	○	その日の状況の判断で入浴しているが優先順位が変わるときの支援の仕方を工夫したい。
58 ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	申し送りや情報の共有をしていくことで生活習慣の把握をしており、昼寝等を促し休息できる環境を作っている。また夜間帯も定期的な巡回を行って安眠できるよう支援している。	○	昼夜逆転にならないような支援を心掛けたい。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割分担を考慮し利用者同士の良い関係を維持できる支援をしている。	○	楽しみを増やせる援助を考えたい。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理で持っている利用者もいる。職員、利用者ともお金を持つことの大切さを理解はしているが、自己管理、職員が預り管理する難しさの課題は認知症介護に欠かせない。	○	買い物に出かける支援が最近できていないので、買い物をする機会を作りたい。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出の支援はその都度している。	○	いつも出かけているから大丈夫と過信しない体調面を考慮した支援を心掛けたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	あらかじめ行事計画書を作成し利用者やご家族と相談しながら喜んで頂ける外出支援を行なっている。	○	利用者の年齢や入居した年数の違いを配慮したい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族への電話は、ご家族の都合も考えた支援を心掛けている。手紙を書き家族とのつながりを大切にしている。	○	手紙のやり取りが継続できる支援を考えたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪ねやすい雰囲気を常に意識している。	○	居心地の良い場所を提供できるような工夫をしていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	抑制廃止委員会を設置しており身体拘束廃止の禁止事項を掲げている。玄関、事務所、共有スペースに掲示しており定例会議等でも議題にあげて常に意識付けを行なっている。	○	言葉の拘束について皆で情報の共有をしていく習慣を身につけたい。声かけの基本を理解した支援をしたい。

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵はかけているが、外出の申し出がある場合は一緒に出かける支援をしている。	○	安全確保の為、各ユニットの玄関ドアが開いたら単独外出という意識で支援をしているが、ドアを開けたら階段を登ったり転倒する「ヒヤリ」であるという意識をもっと統一させたい。
67 ○利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	今どこで誰が何をしているかを把握する習慣を身につけ安全確認を行う支援をしている。	○	安全確保を優先しすぎると抑制している可能性もでてくる事を理解した支援をしたい。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品の置き場所、保管場所を配慮している。	○	日々、利用者の状況に合わせた支援をしたい。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	マニュアルを設置している。事故が起こった後の対策は緊急に会議をして原因追求、改善に向けての話し合いをしている。これからの対応策を考えて事故防止に努めている。	○	ヒヤリハットを随時書く習慣を身につけたい。書きやすい環境、工夫を考えたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急搬送時の対応についての勉強会を実施したが定期的に行えるような工夫をしたい。	○	委員会制度を活用して委員長がリーダーになり定期的に勉強会を行いたい。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防訓練を行っている。訓練前にご迷惑を掛けないように案内をしている。	○	地域住民に避難訓練等の声かけをしていきたい。

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	特にここで起こった事故等の事例を取り上げて、ご家族が共感や同感しやすい状況説明をして、ご家族がなるべく理解出来るように話し合っている。	○	リスクについての内部研修がある。福岡での研修なので参加できないが、情報提供してもらい勉強したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調変化の早期発見には十分考慮している。主治医にも連絡して指示をもらう習慣を身につけている。	○	新人職員に利用者個々の体調変化の要点を伝えられるように努めたい。
74 ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬支援は、飲み方の要点に配慮している。どのような薬があるかは把握できているが副作用を把握しきれていない。	○	薬についての注意事項の工夫をしたい。
75 ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄表で何日排便が無いかわかりやすい記録表にしている。利用者の訴えや行動の変化を見逃さないようにしている。水分摂取には十分な配慮をしている。朝のラジオ体操で運動を促している。	○	今よりも飲食物の工夫で便秘解消を促したい。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケアと夜間義歯洗浄の支援をしている。	○	義歯が気に入らず装着していない利用者への支援を考慮したい。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	シルバーメニューの食材を配達してもらっている。メニューどおりでも、違うメニューにしても、その日の栄養のバランスを考え調理している。	○	食事量を配慮した支援を心掛けたい。

項 目		事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している (インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は定期的実施している。感染症予防に手洗いを徹底している。利用者にも手洗いをする習慣を身につける促しをしている。	○	手洗いは出来ているが、うがいがあまり出来ていない。うがいをする習慣を身につけたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は毎日配達してもらっているので、新鮮で安全である。冷蔵庫の保存する時も日付けを利用者に記載する役割をしてもらい共同作業で食材の管理をしている。まな板・布巾等の殺菌も毎日行っている。	○	熱湯消毒の習慣を身につけたいが、なかなか実行するまでにならない。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	草木を植えている。掲示板を設置して安心して出入りできる工夫をしている。	○	掲示物の管理が不十分なので、広報委員長が掲示物の管理ができるような習慣を身につけたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間 (玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等) は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の状況に応じた模様替えをしている。その場合は環境の変化を敏感に反応する利用者への対応、説明には十分な配慮を行っている。利用者が好きな音楽を聴いて食事を摂ったり昼食後等、照明の光を落として落ち着いて過ごせる工夫をしている。	○	何を重視した共用空間であるか、目的をもって皆がその目的を理解した模様替えをするようにしていき、その目的を忘れない工夫をしたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出入り口にベンチを設置している。時々気の合う利用者同士で会話を楽しんでおられる。昼寝の場所も共用空間を利用している。	○	共用空間での過ごし方の利点・欠点を職員は理解して支援していきたい。

項 目	事業所が示す、取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	今後、取り組んで ゆきたい項目に ○印を記入する	今後、取り組んでいきたい内容 (すでに着手していることも含めて)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>なるべく、ご家族には馴染みのものを持って来てもらい落ち着いて暮らせる・眠れる居室であるように工夫をしている。</p>	<p>○</p>	<p>安全確保・居心地良さの共通点を見つけ出し眠れる居室を考えたい。利用者が居室で楽しんで過ごせる工夫を考えたい。</p>
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>毎朝空気入れ替えを行っている。換気や室内温度調節をこまめに行っている。</p>	<p>○</p>	<p>エアコンのフィルター清掃も換気に関連するという意識で清掃をこまめに行いたい。</p>
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下・トイレ・浴室・脱衣所・階段と必要に応じて手すりの設置をしている。手すりを活用した歩行訓練等の支援をしている。</p>	<p>○</p>	<p>環境を活かした支援を継続したい。</p>
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>一人ひとりのわかる力を理解した支援をしている。なるべく自立できる、自然と自立しているように思える、さりげない支援を心掛けている。</p>	<p>○</p>	<p>職員の援助は利用者には見えないほうが良い場合がある事を共有したい。見えなくても伝わる支援を心掛けたい。「出来ない」と思っていた事が「この人と居ると出来た」という良い印象を持ち自信をつけるきっかけになってもらいたい。</p>
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>近隣の方に頂いた植木鉢等を置いている。玄関の掲示板に、利用者の要望で利用者が描いた絵を掲示して、利用者の感情を和らげる等、掲示板の活用を幅を広げている。</p>	<p>○</p>	<p>花の水遣りや、草取りの工夫を考えたい。</p>

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		事業所が示す、取り組みの成果 (該当する箇所の番号の前に○印をつける)
項	目	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		事業所が示す、取り組みの成果 (該当する箇所の番号の前に○印をつける)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

維持したいと思う点は、家事の共同作業です。出来る事が出来なくなる、できることを多くする支援をしていきたいです。常に共同作業できる支援が日常でいられるよう継続していきたいと思っています。この一年、特に力を入れていた事は地域交流でした。まずは場所が遠く時間も早いので職員のみで地域清掃に参加しました。何度か行くうちに名前は知らなくても、顔はお互い知っている挨拶が自然とできる関係が築けたように思います。遠い場所の自治会盆踊りに始めて参加して自治会長、副会長、他事業所の理事長とも偶然出会い利用者と一緒に楽しむ事が出来ました。隣の地区自治会盆踊りは場所が近いので1ユニットの利用者がほとんど参加できました。席も用意して頂き外部のお年よりと利用者の会話を聞き初対面でも同年代同士通じ合う話しをされていたのがとても印象に残りました。子育てサークル「あじさいの家」に毎週訪問して3年目、最近入居された利用者の名前を覚えてもらえる事が出来ました。利用者も自分の名前を呼ばれて嬉しそうな表情をされていました。また訪問する楽しみが増えました。自治会の餅つき大会に利用者2名職員2名で参加しました。地域清掃の参加者も来られていて、自治会の方々に餅つきのコツを指導してもらい、その一週間後に餅つき大会を開催し「あじさいの家」の管理者の方も参加してくれました。前回手伝って頂いた近隣の方も又参加して頂き初めて会った二人が餅つきのリーダーとなって協力して下さいました。相談員も来て下さり活気ある餅つき大会になりました。いつも道端で話すご近所の方に「ふれあいサロン」に誘ってもらい利用者と一緒に参加させて頂きました。その事をきっかけに、ご近所の方の庭で焼き芋行事に誘ってもらったり畑でとれた野菜を頂いたり思いやりのあるご近所付き合いができるようになった事がここ一年で良かった点になります。来年の目標は職員にとって「ここは安心して働ける、充実した仕事ができる」職場グループホーム「私たちのもう一つの家」にしていく事です。それが利用者にも反映できると考えています。